

第一章 狭山市内所蔵文書

解説	狭山市内所蔵文書	3
資料		
(1)	篠井家文書――中世末期の後北条氏（小田原）と入間川周辺の関係文書、 笹井観音堂（修験寺院）の関係文書、並びに観音堂の沿革と篠井家の系図、修験道の歴史	7
1	乗々院大僧正奉書 享禄五年五月朔日	7
2	聖護院門跡御教書 天文廿一年三月廿七日	8
3	聖護院門跡御教書 天正七年八月廿七日	9
4	聖護院門跡御教書 天正七年八月廿七日	10
5	北条氏照判物 天正八年六月七日	11
6	北条氏照判物 天正八年六月七日	12
7	聖護院門跡御教書 天正十式年八月八日	13
8	聖護院門跡御教書 天正十式年八月八日	14
9	北条氏照判物 天正十六年正月八日	15
10	徳川家康寺領寄進状 天正十九年十一月日	16
11	慶要源春連署書状 文禄五年八月廿五日	17
12	瑞光寺広海書状 慶長十四年五月廿日	18
13	山下二郎左衛門外六名連署証状 慶長十四年五月廿日	19
14	比留間四郎兵衛外九名連署書状 慶長十四年五月廿一日	20
15	金子伝右衛門尉外一名連署証状 慶長十四年五月廿一日	21
16	聖護院門跡御教書 慶長拾四年五月廿三日	22
17	法眼法印連署判物 慶長拾四年五月廿三日	23
18	高金兵衛書状 極月十一日	24
19	観音堂寺記	25
20	修験本当偽邪弁論	28
(2)	渋谷家文書――薬王寺の沿革と渋谷家の系図	63
21	法脈 天保二年八月	63
(3)	信立寺文書――信立寺と日惺	65
22	某（伝日惺）書状	65
23	日惺証状 文禄三年五月廿三日	66
(4)	宗源寺文書――宗源寺と観音堂の関係	66
24	大般若経六百卷寄進者奥書 弘化四年二月	66
(5)	長谷川家文書――中世柏原地区に関する覚書	78
25	天正年中以来田地并ニ先祖系図書 安永八月六月吉日	78
(6)	明光寺文書――明光寺と加治氏	87
26	真言宗明光寺調査上申 明治二十八年十一月十一日	87
(7)	小山家文書――小山家と薬師如来	89
27	薬師如来之縁起 天正十七年十月	89
〇年表		90
第二章	中世入間川のはじめ	
解説一	中世入間川のはじめ	95
解説二	鎌倉街道	95
解説三	武蔵七党と加治氏・金子氏	101
資料		
1	とはすかたり 四〇 宮内庁書陵部所蔵――入間川について	107
2	とはすかたり 九〇 宮内庁書陵部所蔵――堀兼の井について	107
3	信生法師集 宮内庁書陵部所蔵――堀兼の井、入間川宿について	107
4	曽我物語 五 浅間の御狩の事――入間川宿について	108
5	新編武蔵風土記稿 一六一 入間郡六 入間川村――鎌倉街道について	108
6	宴曲抄 善光寺修行――鎌倉街道について	108
7	入間郡誌 藤沢村――入間野について	109
8	吾妻鏡 一二 建久四年三月――源頼朝、入間野で追鳥狩を行う	110
9	吾妻鏡 八 文治五年七月――柏原太郎について	110
10	加治氏系図――武蔵七党	111
11	村山党系図――武蔵七党	112
12	丹党系図――武蔵七党	113
13	金子氏系図――武蔵七党	114
14	由良文書 治承五年十一月十一日――頼朝、新田義重を加治郷郷司職に補す	115
15	正本文書――新田氏所領と加治郷の関係	115
第三章	清水冠者義高と大姫	
解説	清水冠者義高と大姫	119
資料		
1	吾妻鏡 三 元暦元年四月・五月・七月――義高の死とその前後	138
2	吾妻鏡 四 文治元年三月・五月――木曾義仲妹と大姫の出会い	139
3	吾妻鏡 五 文治二年六月・九月――静御前と大姫・政子との出会い	139
4	吾妻鏡 九 建久元年正月――源頼朝の奥州征伐に当たり、藤原氏残党等義仲・義高の名 を用い反逆する	139
5	吾妻鏡 一三 建久五年七月・八月――夫姫の容態悪化する	140
6	吾妻鏡 一三 建久五年閏八月――政子、義高の彼岸供養を行う	140
7	吾妻鏡 一六 建仁三年五月――阿野全成（頼朝弟）、下野で八田知家に誅される	141
8	吾妻鏡 二四 貞応二年八月――政子、大姫の追善供養を行う	141
9	平家物語 七 清水冠者――義高、頼朝の婿となる	142
10	鎌倉北条九代記 姫君病悩付死去――大姫の病と死	142

11	清水冠者石祠 永享二年――清水八幡の由来――	144
12	八幡神社縁起 ―――八幡神社の沿革と義高の横死――	144
13	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 上広瀬村――影隠地蔵の由来――	148
14	新編武蔵風土記稿 一九一 比企郡六 鎌形村――鎌形八幡と義高の懸仏――	148
15	水富村郷土誌 地誌編輯 上広瀬村 古跡――影隠地蔵について――	149
16	入間郡誌 三芳野村――木曾八幡と義高残党伝説――	150
17	栃木県史 一七 田代黒竜編――義高の墓所について――	150
18	しみつ物語 国立国会図書館蔵――室町時代の義高に関する小説――	151
19	解題しみつ物語 国立国会図書館蔵――しみつ物語の解説書――	189
20	那須記 二 清水冠者被討附晋献公后驪姫言――義高に関する小説――	190
第四章 新田義貞の鎌倉攻略と入間川		
解説一	新田義貞の鎌倉攻略と小手指原合戦――	199
解説二	義貞伝説と入間川――	206
資料		
1	参考太平記 一〇 新田義貞挙義兵付小手指原久米川分倍河原合戦并天狗催越後勢事 義貞の挙兵と小手指原・久米川・分倍河原の合戦 212	
2	梅松論 上――北条軍と分倍河原の合戦――	216
3	塙文書 常陸国鹿島郡畑田村塙家所蔵――義貞と入間川の陣――	216
4	小笠原家の系図――入間川・鎌倉の合戦――	216
5	神明鏡 下――義貞の挙兵と足利高氏の子千寿王（義詮）の参加――	216
6	保暦間記――義貞の挙兵――	216
7	新田勤王史――入間川の合戦と新田軍の遊撃戦――	217
8	梅松論 上――義貞の挙兵と鎌倉の合戦――	217
9	狭山の文化財 一 狭山市文化財調査報告三――義貞と三ッ木原の合戦――	218
10	新編武蔵風土記稿 一六一 入間郡六 三ッ木村――三ッ木古戦場――	220
11	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 柏原村――柏原砦跡――	221
12	入間郡誌 豊岡町――大將軍と大將陣――	222
第五章 古戦場としての入間川		
解説	古戦場としての入間川――	225
資料		
(1)	新田義貞・足利高（尊）氏の確執と中先代の乱――	229
1	梅松論 上――義貞の立場――	229
2	梅松論 上――高氏の立場――	229
3	参考太平記 一四 尊氏義貞確執奏状付公卿僉議事――新田・足利両家の確執――	229
4	異本年代記抜萃――足利直義（高氏弟）、鎌倉に下向――	230
5	梅松論 上――征夷大將軍成良親王、鎌倉に下向、東国武士親王の命に従わず直義に属す――	230
6	参考太平記 一三 中先代蜂起付成良親王鎌倉御没落事――北条時行（中先代）信濃で 挙兵し南下、女影原で合戦――	230
7	宮下過去帳 上野新田郡武蔵島――女影原の合戦――	232
8	梅松論 上――高氏、北条軍を東海道を破り鎌倉に入る――	232
9	保暦間記――高氏、東国下向につき征夷將軍の号を請うが許されず、北条軍打破の後、 將軍の号を許される――	233
10	神皇正統記 後醍醐天皇――高氏を征東將軍とする――	233
(2)	北畠顕家の南下と入間川の陣――	233
11	大国魂神社文書 磐城――顕家軍、利根川・安保原・鎌倉の合戦で足利軍を破る――	233
12	元弘日記裏書――顕家軍、利根川・安保原・鎌倉の合戦で足利軍を破る――	233
13	鶴岡社務記録 坤――顕家軍、利根川・安保原・鎌倉の合戦で足利軍を破る――	234
14	御的日記――顕家軍、利根川・安保原・鎌倉の合戦で足利軍を破る――	234
15	参考太平記 一九 顕家卿上洛付利根川合戦并新田徳寿丸相模次郎上洛事――顕家、 足利軍を利根川で破る、新田義貞の子義興、入間川に陣し顕家軍に合流――	234
16	参考太平記 一九 追陸奥勢跡道々合戦事――顕家・義興軍、鎌倉に入る――	234
(3)	武蔵野合戦――	235
17	園太暦 一八――新田軍挙兵、信濃の諏訪祝等宗良親王を奉じ鎌倉に入る――	235
18	鶴岡社務記録 坤――高氏、鎌倉から武州へ向かう――	236
19	町田文書 入間郡日高町町田家所蔵――金井原・人見原等の合戦――	236
20	蠹簡集残編 二 土佐 朝比奈永太郎所蔵――金井原・人見原等の合戦――	237
21	鶴岡社務記録 坤――金井原・人見原等の合戦――	237
22	鎌倉大日記 浅草文庫本――金井原・人見原等の合戦――	237
23	源威集 羽後――金井原・人見原等の合戦――	237
24	張州雑誌抄 三〇――金井原・人見原等の合戦――	237
25	参考太平記 三一 新田義宗已下起義兵事――新田義興・義宗兄弟、上野で挙兵し南下――	238
26	雲頂庵文書 相模――小手指原等の合戦――	239
27	蠹簡集残編 二 土佐 朝比奈永太郎所蔵――小手指原等の合戦――	239
28	古証文 二――小手指原等の合戦――	240
29	板橋文書 磐城――小手指原等の合戦――	240
30	新葉和歌集 一八 雑歌下――小手指原等の合戦――	240
31	李花集 雑歌――小手指原等の合戦――	241
32	新編武蔵風土記稿 一五七 入間郡二 久米村――小手指原古戦場址と鎌倉古街道――	241
33	源威集 羽後――高麗原等の合戦――	241
34	鎌倉大日記 浅草文庫本――高麗原等の合戦――	241
35	神明鏡 下――高麗原等の合戦――	242
36	赤堀文書――高麗原等の合戦――	242
37	井戸葉栗系図 系図綜覧所収――加治氏、初め新田軍のち足利軍に属す――	242
38	高麗氏系図 入間郡日高町高麗神社所蔵――高麗氏、新田氏に属す――	242

39	新編武蔵風土記稿	一七六	高麗郡一	総説一	高麗原古戦場址一	243
40	参考太平記	三一	笛吹峠軍付義宗退越後義興義治籠河村城事一	笛吹峠の合戦一		243
41	武蔵野話	二	比企郡一	うすい峠について一		244
42	新編武蔵風土記稿	一九一	比企郡六	奥田村一	うすい峠について一	245
(4)	足利基氏の子氏満、河越に拠る平一揆を討つ					245
43	鎌倉大日記	浅草文庫本一	平一揆、河越に拠り氏満に反乱、上杉憲顕関東へ下向一			245
44	喜連川判鑑一	平一揆、河越に拠り氏満に反乱、上杉憲顕関東へ下向一				245
45	鎌倉九代後記一	平一揆、河越に拠り氏満に反乱、氏満下向一				245
46	鹿苑寺文書	山城一	上杉憲顕、関東へ下向一			246
47	花営三代記一	上杉憲顕、関東へ下向一				246
48	桜雲記	中一	基氏病み、氏満を名代として平一揆を攻める、基氏病死一			246
49	南方紀伝	下一	基氏病み、氏満を名代として平一揆を攻める、基氏病死一			246
50	七巻冊子	六一	基氏病み、氏満を名代として平一揆を攻める、基氏病死一			246
51	花営三代記一	氏満、平一揆を討つ一				246
52	市河文書	出羽一	氏満、平一揆を討つ一			247
(5)	足利氏満、小山若犬丸を討つ					247
53	鎌倉大草紙一	小山若犬丸の乱一				247
54	畑田文書	楓軒文書纂所収一	畑田重幹、小山若犬丸討伐のため府中・白河等に陣す一			247
55	嶋津文書	備後一	嶋津直忠、小山若犬丸討伐のため入間川等に陣す一			248
56	榊原家所蔵文書一	小山若犬丸の討伐一				248
(6)	上杉禅秀の乱一					248
57	看聞御記一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一				248
58	畑田文書	楓軒文書纂所収一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一			249
59	喜連川判鑑一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一				250
60	鎌倉大草紙一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一				250
61	鎌倉九代後記一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一				251
62	湘山星移集一	禅秀、足利満隆・持仲等と足利持氏に背き鎌倉で挙兵一				252
(7)	足利持仲と南一揆の合戦一					253
63	豊嶋宮城文書	内閣文庫所蔵一	持仲と上杉憲方、南一揆及び江戸・豊嶋氏等と戦い敗れる一			253
64	鎌倉大日記	浅草文庫本一	持仲と上杉憲方、南一揆及び江戸・豊嶋氏等と戦い敗れる一			253
65	鎌倉大草紙一	持仲と上杉憲方、南一揆及び江戸・豊嶋氏等と戦い敗れる一				253
66	鎌倉九代後記一	持仲と上杉憲方、南一揆及び江戸・豊嶋氏等と戦い敗れる一				253
67	武州文書	多摩郡一	足利持氏、南一揆に新田・岩松の余党を討伐させる一			254
68	武州文書	多摩郡一	足利持氏、南一揆に新田・岩松の余党を討伐させる一			254
(8)	禅秀残党の反乱と舞木宮内丞一					254
69	喜連川判鑑一	舞木宮内丞、禅秀残党と入間川で合戦一				254
70	鎌倉大日記	浅草文庫本一	舞木宮内丞、禅秀残党と入間川で合戦一			255
71	鎌倉大草紙一	舞木宮内丞、禅秀残党と入間川で合戦一				255
72	浪合記一	舞木宮内丞、禅秀残党と入間川で合戦一				255
(9)	足利持氏と入間川の陣一					255
73	相州兵乱記	一	持氏鎌倉へ帰玉フ事付鎌倉合戦一	持氏、上杉憲実と早川尻等で合戦一		255
74	喜連川判鑑一	持氏、上杉憲実と早川尻等で合戦一				255
75	上杉家文書一	憲実、府中に陣す一				256
76	看聞御記一	持氏、入間川に陣す一				256
(10)	長尾景仲の入間川滞陣一					256
77	鎌倉大日記	浅草文庫本一	結城氏朝幕府に背く一			256
78	鎌倉大草紙一	景仲、結城討伐のため入間川に陣す一				256
(11)	足利政氏と柏原の陣一					258
79	入間郡誌	郷土の沿革一	足利政氏、上杉顕定を助け柏原に陣す一			258
80	入間郡誌	柏原村一	足利政氏、上杉顕定を助け柏原に陣す一			258
(12)	上杉憲寛と入間川の陣一					258
81	続本朝通鑑	一八一	憲寛、上杉朝興の蕨城攻めに随い入間川に陣す一			258
(13)	三ッ木合戦一					258
82	快元僧都記一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一				258
83	妙法寺記	下一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一			259
84	鎌倉九代後記一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一				259
85	北条記	二	河越城責の事一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一		259
86	関東管領記	後鑑卷三〇三所収一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一			259
87	河越記一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一				260
88	北条系図	小田原編年録所収一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一			261
89	関八州古戦録	一	北条早雲庵父子付氏綱菩提所建立ノ事一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一		261
90	北条五代記	三	応永より慶長関東合戦次第の事一	北条氏綱、上杉朝定と三ッ木で合戦し河越城を陥す一		262
91	北条五代記	一	上杉朝成を生捕事一	上杉朝成（朝定叔父）、北条軍に捕えられる一		262
92	入間郡誌	堀兼村一	三ッ木原古戦場址一			262
(14)	上杉憲政と柏原の合戦一					263
93	関八州古戦録	一	上杉憲政武州河越城責ノ事一	上杉憲政、河越城を攻め柏原で合戦一		263
(15)	河越夜戦一					265
94	関八州古戦録	一	福島伊賀守勝広河越ノ城へ駆入ル事一	河越夜戦について一		265
95	関八州古戦録	一	北条氏康河越城後詰付夜軍ノ事一	北条氏康、河越城を包囲する上杉軍を破る一		265
○年表						269

第六章	関東の管領足利基氏と入間川御所	
解説一	関東の管領足利基氏と入間川御所	275
解説二	入間川御所について	287
資料		
(1)	関東公方・鎌倉御所	300
1	円覚寺文書 円覚寺所蔵―基氏を鎌倉御所と称す―	300
2	保坂文書―高氏を鎌倉御所と称す―	302
3	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―高氏、義詮を鎌倉殿と称す―	302
(2)	基氏と義詮の関係	302
4	日工集―將軍義詮、八幡宮に誓書を納め、基氏と兄弟相護ること誓う―	302
5	日工集―基氏の人となり―	303
6	難太平記―基氏と関東の統治―	303
7	難太平記―高氏・直義、基氏を義詮の御守目とする―	303
(3)	足利基氏の入間川滞陣	303
8	鶴岡社務記録 坤―基氏、鎌倉を立ち武州へ下向―	303
9	畑田文書 楓軒文書纂所収―基氏、鎌倉を立ち武州へ下向―	303
10	神明鏡 下―基氏・畠山国清、入間川へ向かう―	304
11	源威集 羽後―基氏・畠山国清、入間川に陣す―	304
12	鎌倉管領九代記 一 畠山道誓上洛付同関東下向謀反滅亡―基氏、入間川を前にして陣す	304
13	鎌倉九代後記―基氏、入間川殿と称す―	304
14	鶴岡社務記録 坤―高氏、京へ上る―	304
15	神明鏡 下―高氏、京へ上る―	304
16	大庭文書―基氏、入間川滞陣のため、八幡宮浜大鳥居棟上を略儀により執行―	304
17	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―基氏、覚園寺長老に高氏病氣平癒の祈禱を命ず―	305
18	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―基氏、覚園寺災上を見舞う―	305
19	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―基氏、覚園寺長老に天下静謐祈禱を命ず―	305
20	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―基氏、覚園寺長老に彗星出現による天下安全祈禱を命ず―	305
21	覚園寺文書 覚園寺旧蔵―基氏、覚園寺長老に雨乞祈禱を命ず―	305
22	相州文書―義詮、鶴岡八幡宮の訴えをいれ、基氏に久良岐郡久友郷を安堵させる―	305
23	相州文書―基氏、般若心經を写經す―	306
24	古簡雑纂 六―入間川御所警固について―	306
25	萩藩閥閥録 八一 金子弥右衛門―基氏、金子氏等に上京を命じ、義詮の南軍討伐を加勢する―	306
26	駿河志料 古文書府内二 別府文書―基氏、金子氏等に上京を命じ、義詮の南軍討伐を加勢する―	306
27	雲頂庵文書 相模―基氏、金子氏等に上京を命じ、義詮の南軍討伐を加勢する―	306
28	萩藩閥閥録 八一 金子弥右衛門―基氏、再度金子氏に上京を命じ、義詮の南軍討伐を加勢する―	306
(4)	新田義興、矢口の渡しで謀殺される	307
29	参考太平記 三三 新田義興自害事―義興、謀略により矢口の渡しで自害、義興の亡霊入間川をおびやかす―	307
30	喜連川判鑑―義興、矢口の渡しで誅される―	313
(5)	畠山国清、入間川より上洛	314
31	愚管記 五―国清、南軍討伐のため上洛―	314
32	園太暦 三二―国清、南軍討伐のため上洛―	314
33	延文四年記―国清、南軍討伐のため上洛―	314
34	喜連川判鑑―国清、南軍討伐のため上洛―	314
35	参考太平記 三四 畠山道誓上洛事―国清、南軍討伐のため上洛―	314
36	兵左衛門家文書 西多摩郡五日市町―国清、軍勢を催促する―	316
(6)	足利基氏、畠山国清を追討	316
37	大乘院日記目録―国清、鎌倉へ下向―	316
38	参考太平記 三五 南方蜂起付畠山道誓下向関東事―国清、鎌倉へ下向―	316
39	雲頂庵文書 相模―国清、基氏に背き伊豆に籠る―	316
40	安保文書 相模―国清、基氏に背き伊豆に籠る―	317
41	鎌倉大日記 浅草文庫本―国清、基氏に背き伊豆に籠る―	317
42	参考太平記 三七 畠山道誓逆心事此段除揚国忠事―国清、誅伐される―	317
43	正本文書―国清、誅伐される―	317
(7)	足利基氏、入間川在陣中の氏満（金王丸）を警固させる	318
44	安保文書 信濃―基氏、入間川在陣中の氏満を警固させる―	318
(8)	足利基氏と高麗郡の産業	318
45	町田文書 入間郡日高町町田家所蔵―基氏、高麗郡内知行分の年貢帖絹代を完済させる	318
(9)	芳賀禪可の乱	319
46	額田小野崎文書―字都宮氏綱、上杉憲頭を討とうとする―	319
47	喜連川判鑑―禪可、憲頭を攻める―	319
48	秋田藩採集文書 二〇 城下諸士文書一〇―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	319
49	皆川文書 下野―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	319
50	集古文書 二四 下野国喜連処士三浦某所蔵―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	319
51	畑野文書 甲斐―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	320
52	畑田文書 楓軒文書纂所収―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	320
53	後愚昧記 三―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	320
54	喜連川判鑑―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦―	320
55	鎌倉大日記 浅草文庫本―基氏、禪可等を破り、下野夫玉へ陣を進める―	321
56	神明鏡 下―氏綱、基氏に降伏する―	321
57	参考太平記 三九 芳賀禪可与足利基氏合戦事―基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦、	

	これを破る――	321
58	桜雲記 中――基氏、禪可等と苦林・岩殿山で合戦、これを破る――	323
59	築田家譜 内閣文庫蔵――基氏、関東の将軍と称す――	323
60	新編武蔵風土記稿 一七二 入間郡一七 玉林寺村――苦林野古戦場址――	324
61	新編武蔵風土記稿 一九一 比企郡六 岩殿村――岩殿山墨跡――	324
62	参考 日本城郭全集 四 足利館――	324
(10)	足利基氏の死と関東の管領――	325
63	上杉家文書――基氏、上杉憲顕に関東管領職就任を願う――	325
64	鎌倉九代後記――基氏、上杉憲顕に関東管領に任ずる――	326
65	細川頼之記――基氏、憲顕に後事を託す――	326
66	細川頼之記――基氏の死――	326
67	太平記評判秘伝理尽鈔 四〇 佐馬頭基氏逝去事――基氏の死――	327
68	喜連川判鑑――基氏の死――	328
69	喜連川判鑑――平一揆、基氏の子氏満に背く、憲顕、京を立ち鎌倉へ下向――	328
70	関八州古戦録 一 関東鎌倉管領家の事――関東鎌倉管領家の由来――	328
(11)	入間川御所――	329
71	参考 関東中心足利時代史の研究――入間川御所柏原説――	329
72	参考 入間郡誌 豊岡町――入間川御所大将陣説――	330
73	参考 入間川町誌――入間川御所徳林寺説――	330
(12)	入間川御所と新田義興――	330
74	入間郡誌 豊岡町――愛宕神社と十三塚――	330
第七章	入間川の天災	
解説	入間川の天災――	335
資料		
(1)	鎌倉時代初期――	337
1	吾妻鏡 一八 建暦元年十月――鴨長明、源実朝に謁す――	337
2	発心集 四 武州入間川沈水事――入間川の洪水――	337
(2)	寛喜の天災――	339
1	吾妻鏡 二六 寛喜二年六月――金子郷に降雪・降雹、これより全国的に寛喜の天災 始まる――	339
2	吾妻鏡 二六 寛喜二年八月――各地で洪水、穀物壊滅――	339
第八章	笹井の観音堂	
解説一	笹井の観音堂――	343
解説二	霞ヶ関について――	355
解説三	逆川と逆言葉――	360
資料		
(1)	霞ヶ関――	365
1	熊野三山検校次第――観音堂中興の祖、行尊について――	365
2	廻国雑記――堀兼・入間川・観音堂・黒須川等について――	365
3	廻国雑記――霞ヶ関――	368
4	新編武蔵風土記稿 七 山川――霞ヶ関――	369
5	水富村郷土誌 郷土の沿革並寺社旧跡――霞ヶ関――	370
6	入間郡誌 柏原村――霞ヶ関――	371
7	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 柏原村――霞ヶ関――	371
8	入間郡誌 水富村――霞ヶ関――	371
9	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 笹井村――笹井の滝と堰――	371
(2)	霞について――	372
10	参考 多摩町誌 多摩町誌編纂委員会――霞の関と関戸――	372
11	参考 修験道史研究――霞について――	376
12	参考 修験道史研究――大峯について――	376
13	参考 修験道史研究――修験道と徳川家康の統治――	377
14	武州大先達瀧音山白山寺観音堂触下次第 笹井家所蔵――観音堂の勢力範囲――	378
15	武州文書 入間郡――十玉坊と年行事職――	379
16	新編武蔵風土記稿 一八四 高麗郡九 新堀村――大宮寺と観音堂――	380
17	参考 高麗神社と高麗郷 入間郡日高町高麗神社所蔵――高麗氏と修験道――	380
18	高麗氏系図 入間郡日高町高麗神社所蔵――高麗氏と修験道――	381
19	新編武蔵風土記稿 一八三 高麗郡八 高萩村――高萩院と行尊――	382
20	参考 東村山市民話集 東村山市文化財叢書六――河童の訛証文――	382
21	参考 埼玉県伝説集成 下――笹井の河童タケ坊――	383
(3)	逆川と逆言葉――	385
22	入間郡誌 入間川町――入間言葉――	385
23	入間川町誌――逆言葉――	385
24	狂言入間川 三人――入間川と入間言葉――	386
25	武蔵演路 入間郡――入間言葉と逆川――	390
第九章	柏原の鋳物師	
解説一	柏原の鋳物師――	395
解説二	狭山市内の胎内仏――	406
資料		
1	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 柏原村――円光寺・長谷川家・増田家――	409
2	増田家墓碑銘――増田大水正金――	409
3	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 柏原村――白髭神社・神明社・剣明社――	410
4	新編武蔵風土記稿 一八〇 高麗郡五 上広瀬村――広瀬神社――	411
5	新編武蔵風土記稿 一六一 入間郡六 入間川村――子ノ神社――	412
6	新編武蔵風土記稿 一六一 入間郡六 上奥富村――梅宮神社――	412

7	新編武蔵風土記稿	一八九	比企郡四	上八ッ林村	上八ッ林薬師堂	413	
8	新編武蔵風土記稿	一一四	多摩郡一六	御嶽村	御嶽神社	414	
9	新編武蔵風土記稿	二一七	秩父郡二	高山村	杉本坊	414	
10	入間郡誌	南高麗村	上下直竹富士浅間社			414	
11	新井家文書	入間郡野田新井村所蔵	北条氏（小田原）と柏原鍛冶師			414	
12	参考	薄墨繪旨	入間市木蓮寺長沢家所蔵	鑄物師の縁起		416	
13	参考	日本城郭全集	四	金子氏館	金子氏館	417	
14	鑄物師職座法之掟	中世末期の鑄物師				417	
15	円光寺聖観音立像	法量と概要				418	
16	篠井家十一面観音坐像	法量と概要				420	
17	篠井家十一面観音立像	法量と概要				424	
18	常楽寺不動明王坐像	法量と概要				427	
19	常楽寺不動明王立像	法量と概要				428	
20	古谷家土屋稻荷神像	法量と概要				430	
○年表						432	
第十章	中世起立の社寺						
解説	中世起立の社寺					437	
資料							
1	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	入間川村	八幡神社・清水八幡社	440	
2	新編武蔵風土記稿	一八〇	高麗郡五	上広瀬村	禅龍寺	440	
3	新編武蔵風土記稿	一八〇	高麗郡五	篠井村	宗源寺	440	
4	新編武蔵風土記稿	一八〇	高麗郡五	根岸村	明光寺	441	
5	新編武蔵風土記稿	一八〇	高麗郡五	上広瀬村	信立寺	441	
6	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	下奥富村	東林寺	441	
7	東陽寺史	東陽寺の縁起				441	
8	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	入間川村	徳林寺	444	
9	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	加佐志村	宝林寺	445	
10	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	入間川村	慈眼寺	445	
11	新編武蔵風土記稿	一八〇	高麗郡五	柏原村常楽寺		445	
○年表						446	
第十一章	中世末期の入間川						
解説一	中世末期の入間川					451	
解説二	後北条氏時代の入間川と庶民の生活					452	
解説三	郷村の成立					456	
	広瀬郷	柏原郷	奥富郷	入間川郷	青柳	三ッ木	笹井郷
資料							
1	参考	小田原衆所領役帳	校訂者杉山博	所領役帳の意義と入間川・三ッ木・上奥富・広瀬・笹井・柏原		460	
2	参考	入間川町誌	平本金十郎氏記録	田中村百姓への帰村命令		463	
3	玉泉寺文書	武蔵	入間川の三年間諸役免除			464	
4	宝林寺文書	青梅市立図書館所蔵	入間川の三年間諸役免除			464	
5	北条五代記	二	関東永楽銭すたる事	北条氏康、関東諸国に永楽銭の通用を命ず		464	
6	新編武蔵風土記稿	一八三	高麗郡八	高萩村	定市の法度	464	
7	中氷川神社文書	所沢市中氷川神社所蔵	豊臣秀吉、入曽村等に禁制を出す			465	
8	水戸城北四院文書	常陸	渋垂下野小四郎と広瀬郷			465	
9	新編武蔵風土記稿	一六一	入間郡六	南入曽村	入曽十二衆	466	
10	古文帖	田中・入間川村と小笠原氏				466	
第十二章	市内石造遺物、板碑について						
解説	市内石造遺物、板碑について					469	
資料							
1	参考	入間川町誌	板碑と古仏址			473	
2	入間碑集	一五	日国の碑			473	
3	青木文書	駿河	後北条氏（小田原）と石工			476	
4	参考	日本歴史	二八五	丹党と石工・金工・板碑		476	
5	参考	歴史手帖	五	板碑の資料的価値		477	
○板碑一覧表						479	
○年表						483	
中世関係指定文化財一覧表							
あとがき							
資料提供者名簿							
狭山市史編さん関係者名簿							

口絵・写真（図版）総目次

- 口絵 1 母なる流れ入間川（市内新富士見橋付近）[カラー]
- 口絵 2 鎌倉街道[カラー]
- 口絵 3 影隠地蔵（市指定文化財）
- 口絵 4 さわりの壺（県指定文化財）
- 口絵 5 篠井家文書（県指定文化財）
- 口絵 6 信立寺文書
- 口絵 7 篠井家十一面観音像
- 口絵 8 増田家懸仏（柏原）
- 口絵 9 増田家鉄製位牌（柏原新田）
- 口絵10 石川家とりべ
- 口絵11 天岑寺月待供養の碑（市指定文化財）

口絵12	徳林寺弥陀・大黒天・釈迦複合板碑	
口絵13	野々宮神社十三仏月待板碑	
口絵14	宮本家追刻板碑	
第一章	狭山市内所蔵文書	
図 1	乗々院大僧正奉書	7
図 2	聖護院門跡御教書	8
図 3	聖護院門跡御教書	9
図 4	聖護院門跡御教書	10
図 5	北条氏照判物	11
図 6	北条氏照判物	12
図 7	聖護院門跡御教書	13
図 8	聖護院門跡御教書	14
図 9	北条氏照判物	15
図10	徳川家康寺領寄進状	16
図11	慶要源春連署書状	17
図12	瑞光寺広海書状	18
図13	山下二郎左衛門外六名連署証状	19
図14	比留間四郎兵衛外九名連署書状	20
図15	金子伝右衛門尉外一名連署証状	21
図16	聖護院門跡御教書	22
図17	法眼法印連署判物	23
図18	高金兵衛書状	24
図19	観音堂寺記	25
図20	修験本当偽邪弁論	28
図21	渋谷家法脈	63
図22	日惺書状	65
図23	天正年中以来田地并ニ先祖系図書	79
第二章	中世入間川のはじめ	
図24	武蔵鎧（入間市木蓮寺）	103
第三章	清水冠者義高と大姫	
図25	清水八幡（現在）	第三章界紙
図26	義高墓石（鎌倉市常楽寺）	119
図27	清水八幡（昭和八年）	119
図28	大六天の森（栃木県益子町上大羽）	125
図29	影隠地藏	136
図30	八幡社懸仏（比企郡嵐山町鎌形）	148
第四章	新田義貞の鎌倉攻略と入間川	
図31	小手指原古戦場跡の碑（所沢市小手指）	204
図32	柏原砦跡の図	221
第六章	関東の管領足利基氏と入間川御所	
図33	基氏墓所（鎌倉市瑞泉寺）	275
図34	柏原砦跡の図	289
図35	入間川御所築城推定要図	293
図36	城山砦跡	295
図37	享保の庚申塔	296
第八章	笹井の観音堂	
図38	笹井家聖護院御用札	第八章界紙
図39	観音堂本尊	344
図40	薬王寺本尊	344
図41	笹井村観音堂の図	345
図42	根岸金山神社	347
図43	原市場の板碑（飯能市原市場）	348
図44	滝不動	350
図45	竹ヶ淵	350
図46	アケボノ象の歯	351
図47	宗源寺過去帳	355
図48	笹井村観音堂の図	372
第九章	柏原の鋳物師	
図49	増田家金山神社（柏原）	397
図50	増田家懸仏（柏原）	397
図51	石川家とりべ	397
図52	長谷川家懸仏（木製）	398
図53	長谷川家懸仏（鋳物製）	398
図54	白鬚神社明細帳	398
図55	銅造円光寺聖観音立像	398
図56	広瀬神社懸仏	399
図57	銅造笹井家十一面観音立像	399
図58	八王寺懸仏（飯能市南）	399
図59	薬師堂鰐口（比企郡川島町）	399
図60	増田家鉄製位牌（柏原新田）	405
図61	佐藤家鍛冶屋金山神社	406
図62	増田家墓碑銘（柏原）	410
図63	広瀬神社神体・仏像の図	411
図64	子ノ神社鰐口	412

図65	梅宮神社の図	――	412
図66	梅宮神社鰐口	――	413
図67	薬師堂鰐口（比企郡川島町）	――	413
図68	新井家文書（入間市野田）	――	415
図69	新井家文書（入間市野田）	――	415
図70	銅造円光寺聖観音立像	正面――	420
図71	銅造円光寺聖観音立像	右側面――	420
図72	銅造円光寺聖観音立像	左側面――	420
図73	銅造円光寺聖観音立像	背面――	420
図74	木造篠井家十一面観音坐像	正面――	422
図75	木造篠井家十一面観音坐像	右側面――	422
図76	木造篠井家十一面観音坐像	背面――	423
図77	木造篠井家十一面観音坐像	底部――	423
図78	観音立像胎内納入図	――	424
図79	銅造篠井家十一面観音立像	正面――	426
図80	銅造篠井家十一面観音立像	斜右側面――	426
図81	銅造篠井家十一面観音立像	左側面――	426
図82	銅造篠井家十一面観音立像	背面――	426
図83	銅造篠井家十一面観音立像	底部――	426
図84	常楽寺不動明王坐像	正面――	427
図85	常楽寺不動明王坐像胎内仏納入図	――	427
図86	常楽寺不動明王立像	――	428
図87	古谷家土屋稻荷神像	――	430
図88	古谷家土屋稻荷神像胎内納入仏	――	430
第十章	中世起立の社寺		
図89	成円寺御札	――	第十章界紙
図90	成円寺多聞天摺仏	――	第十章界紙
図91	伝信立寺加治氏墓	――	438
第十二章	市内石造遺物、板碑について		
図92	篠井家板碑	――	第十二章界紙
図93	徳林寺板碑群	――	第十二章界紙
図94	板碑各部の名称	――	470
図95	日国の碑（綿貫家墓地）	――	472
図96	古仏址（綿貫家墓地）	――	472